



大槌まつり

雨が降る中、勢いよく神輿は町内を練り歩き、郷土芸能団体と手踊り団体が舞を披露しました。また、魚市場では曳舟まつりも例年どおり行われました。

祭



大須賀手踊り 新しい山車と踊りを初披露
9月21日（土）、宵宮祭奉納舞が行われる小槌神社の境内。漁船の面影を残す山車の前で「ハアヨイ、ハアヨイ」と、大須賀青年親交会（大須賀手踊り）は、新しい山車と踊りを初披露しました。共同代表の柏崎師さんは「新調した山車と新しい踊りで、より一層気合を入れて手踊りを披露したい」と、大槌まつりへの意気込みを見せました。今回披露した山車は、漁船として使えなくなった船を譲り受けて作られました。山車作り



に携わった一人、阿部高広さんは「新たな山車を見てもらい、手踊りで祭りに参加したいという人が増えてほしい」と、優しい表情を浮かべました。山車作りは昨年の祭り明けから作業を始め、全て手作りで1年かけて完成しました。新しい山車に合わせてお披露目された「御祝」。昭和16年ころに安渡漁港で、大漁時に歌われていた祝い唄をアレンジして、振り付けをした新たな踊りです。古き良き町の文化継承への願いも込められたこの踊り。発案した共同代表の大久保愉伊さんは「これまでに応援してくれた多くの人たちに、今の『大須賀手踊り』を見せて、誠意をもって町を盛り上げていきたい」と、大須賀手踊りへの思いを語りました。

町内の手踊り団体も解散が相次いでいる中で、大須賀青年親交会は「手踊りが好きな人や踊りたいのに場所が無い人などの受け皿になりたい」と、メンバー同士のつながりを深めながら、活動を続けています。

吉里吉里まつり

大槌まつりより一足先に行われた吉里吉里まつりでは、地元の郷土芸能団体や手踊り団体が参加。子どもの担ぎ手による「子ども神輿」も披露されました。

